

第5学年「伝えたいことを明確にして、報告しよう」(全8時間)

1 単元について

(1) 単元の目標

- ① 情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ
- ② 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1) ア
- ③ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1) エ
- ④ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元の評価規準

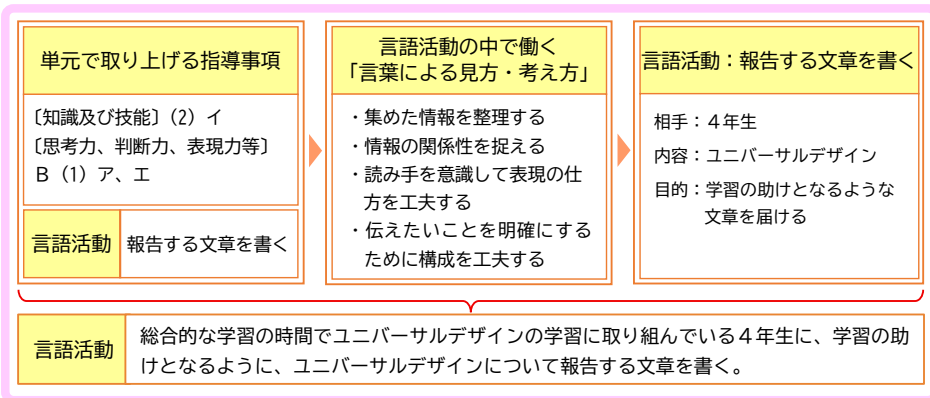
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係付けの仕方を理解し使っている。(2)イ	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)	①粘り強く、伝えたいことを明確にしたり書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって報告する文章を書くようとしている。

2 本単元における「深い学び」の実現に向けて

- (1) 「深い学び」を実現している姿とは
比較や分類、関係付けといった「言葉による見方・考え方」を働かせながら、伝えたいことを明確にし、読み手にとって分かりやすい報告する文章を作成している姿。
- (2) 授業の実際

ポイント① 「言葉による見方・考え方」が意識的に働く言語活動の設定

本単元では、「報告する文章を書く」という言語活動を設定します。学習を展開する中で、「4年生に学習の助けとなるような報告する文章を書く」という目的や相手を意識するよう促すことで、児童は、情報をどのように整理し、どのような構成で伝えるかという見通しをもつことができます。



ポイント② 単元で働かせる「言葉による見方・考え方」の自覚化

指導と評価の計画 (全8時間)

時	主な学習活動	評価規準・【評価方法】
1	○単元全体の学習の見通しをもち、学習計画を立てる。	
2	○身近にあるユニバーサルデザインについて考え、書く題材を決める。	
3	○題材からテーマを設定し、様々な調べ方で情報を集める。	[知識・技能①] 【1人1台端末の記録・観察】
4	○集めた情報を整理し、報告する文章で伝えたいことを明確にする。	[思考・判断・表現①] 【1人1台端末の記録・観察】
5	○報告する文章のモデルを参考にして、文章の構成を考える。	[思考・判断・表現②] 【1人1台端末の記録・観察】
6	○報告する文章の下書きを書く。	[主体的に学習に取り組む態度①]
7	○下書きを推敲し、それを基に清書する。	【振り返りの記録】
8	○単元全体の学習の振り返りを行う。	

*ポイント②の具体を、第1時と第4時を取り上げて、説明します。

《単元を通して働かせる「言葉による見方・考え方」の見通しをもつ場面 (第1時)》

言語活動の目的や相手を児童と共有することで、児童は、どのような「言葉による見方・考え方」を働かせればよいかという見通しをもって学習に取り組むことができます。

※**ハイライト**の部分は、児童が働かせている「言葉による見方・考え方」を示しています。

学習課題

この単元では、**①伝えたいことを明確にし、書き表し方を工夫したり、書く力を伸ばす学習**をしていきます。
課題は、**総合的な学習の時間**でユニバーサルデザインの学習に取り組んでいる4年生に、**②ユニバーサルデザインについて報告する文章を届けること**です。

単元の学習課題は、次のとおりです。報告する文章では、読み手に内容が分かりやすく伝わるよう、情報を整理したり、構成を考えたりすることが大切です。

4年生はもうユニバーサルデザインについて勉強していますよね。

はい。4年生にとって、学びの助けになる文章にするには、どのようなことを考えるとよいでしょうか。

4年生がまだ知らないことを調べて書くとよいと思います。

身近にあるけど気づきにくいユニバーサルデザインもよいと思います。

情報の選び方が大切だということですね。では、4年生に分かりやすく伝えるためには、どのようなことに気を付けるとよいでしょうか。

難しい言葉を使わない方がよいと思います。

たくさんの情報を書く、読む人に何を伝えたいかが分かりにくくなるので、**まとめの方がよい**と思います。

工夫してあるところが分かる写真を使うとよいと思います。

そうですね、言葉の選び方や情報の量、写真の工夫で、4年生にとって分かりやすい文章になりますね。

《集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にしている場面 (第4時)》

ワークシートのモデルを黒板に掲示し、情報を整理する際の手順を確認していくことで、児童が学習活動を具体的に見通すことができるようになります。児童は、似ている情報や関連している内容で情報をまとめ、まとめた情報に見出しを付けながら情報を整理する中で、「言葉による見方・考え方」を働かせます。

《活動の見通しをもつ場面》

※ハイライトの部分は、児童が働かせている「言葉による見方・考え方」を示しています。



今日は、みなさんが集めた情報を整理して、報告する文章で伝えたいことを明確にする学習を行います。

ぼくは、遊具のユニバーサルデザインについて4年生が知らないような情報をたくさん集めました。どうやって整理したらよいですか。

では、先生が集めた情報(資料1)を使って整理してみましょう。まず、報告文で伝えたい情報を選びます。その情報を中心に、残りの情報をグループにまとめます。どうやってまとめたらいでしょうか。

同じ言葉が使われているものや、内容が関係している情報をまとめる」とよいと思います。

スロープのつくりについて書かれてある情報は内容が似ているのでそれぞれ同じグループにまとめることができそうです。

そうですね。では、情報をまとまりに分けることができたら、一目で内容が分かるように見出しを付けてみましょう。

上のグループは、どの情報にも、スロープがあることで安心できることや安全に移動できることが書かれています。だから、見出しは「安心や安全」にするとよいと思います。

下のグループの2つの情報はどちらもスロープについて、安全に使える工夫が書かれています。だから、見出しは「スロープのつくりと工夫」にすると分かりやすいと思います。

見出しを付けてみて、どうですか。

見出しを付けると、情報がまとまって見えるから、何を伝えたいのかがはっきりすると思います。

どちらの見出しも、情報の共通点をしっかり考えて付けられていますね(資料2)。見出しの付け方によって、情報のまとまり方や伝わり方が変わること気が付きましたね。次は、みなさんが集めた情報を整理して、伝えたいことを明確にしましょう。

スロープについて		
子どもが小さいときにベビーカーを使っていたが、階段がのぼれずに大変だった。そんなとき、入口にスロープがあるとベビーカーを持ち上げなくてよいのでとても助かった。 インタビュー 母	階段ではなくスロープがあると、小さい子どもが歩きやすくて安心です。 インタビュー 利用者	自転車を押して通行できるように、階段にははばてふ設されたものもあります。 参照 ○○サイト
スロープは多くの場合、階段やだん境のある場所に作ってあります。階段やスロープには手すりがついています。 参照 ○○図書	スロープを使うことで靴がはきやすくなって安心感があります。 インタビュー 祖母	
	スロープの表面はかん車にすべらないように加工してあります。 参照 ○○図書	

資料1 教師が集めた情報メモ

安心・安全	
子どもが小さいときにベビーカーを使っていたが、階段がのぼれずに大変だった。そんなとき、入口にスロープがあるとベビーカーを持ち上げなくてよいのでとても助かった。 インタビュー 母	階段ではなくスロープがあると、小さい子どもが歩きやすくて安心です。 インタビュー 利用者
	スロープを使うことで靴がはきやすくなって安心感があります。 インタビュー 祖母
スロープのつくりと工夫	
スロープは多くの場合、階段やだん境のある場所に作ってあります。階段やスロープには手すりがついています。 参照 ○○図書	スロープの表面はかん車にすべらないように加工してあります。 参照 ○○図書

資料2 情報を分類し、見出しを付けて整理した板書

《自力解決を図る場面》

2つのグループに分けたけど、どのような見出しにすればよいか分からない。①と②は【安全】という共通点があるけど、③は【楽しさ】かな。でも、ユニバーサルデザインについて報告するのに【楽しさ】だけだと足りない気がするな。同じ題材で調べているBさんに聞いてみよう。(資料3)

--- 児童Aは、児童Bに相談に行く ---

③は【誰でも楽しめる遊具】という見出しにしたらどう? その見出しなら、ほかの情報も分類することができるかも。

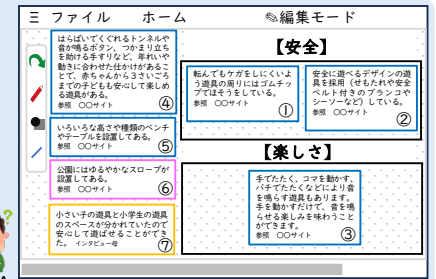
なるほど! 「誰でも楽しめる」という見方をすると、④も関係しているから③と④で分類することができるね。

その情報を4年生が初めて知るとしたら、どのような見出しにすると伝わりやすいですか。

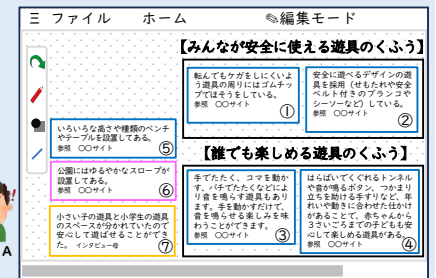
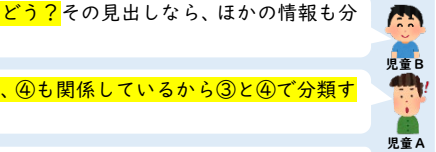
読み手の理解を意識しながら目的を再確認し、どの言葉が伝わりやすいか、どの情報が大切かを考えて選ぶようにするための問い掛け

「安全」や「誰でも楽しめる」だけでは伝わりにくから、「遊具の工夫」と付けた方がよいかも! 【みんなが安全に使える遊具の工夫】と【誰でも楽しめる遊具の工夫】なら、伝えたいことがはっきりする! (資料4)

今のように、情報を分類したり関係付けたりして、見出しの言葉を工夫することで、情報が整理され、伝えたいことがより明確になりますね。



資料3 児童Aのワークシート(修正前)



資料4 児童Aのワークシート(修正後)

《本時で働かせた「言葉による見方・考え方」について振り返りを行っている場面 (第4時)》

「言葉による見方・考え方」の確認と活用を促すための振り返りの視点を示すことで、児童は、学習活動を振り返り、見方・考え方を自覚し、次の学習に活用することができるようになります。

《振り返りを行う場面》

本時のめあては、「集めた情報を整理して、報告する文章で伝えたいことを明確にしよう」でした。今日の学習活動を振り返りましょう。振り返りを行うときは、何ができたかだけではなく、どうやったらできたかについて書きましょう。また、それを次の学習にどのように生かしたいかについても書きましょう。

今日の学習では、集めた情報を関係のあるもの同士でまとめることができました。見出しを付けるときに、情報の共通点を考えると分かりやすくなることに気が付きました。次の学習では、このまとめ方を使って、文章の構成を考えるときに、どの情報を中心に書くかを決めたいです。

今日の学習では、伝えたいことを明確にするために、集めた情報を似ている言葉や内容に目を付けて比べたり、まとめたりにして整理することができました。ほかの学習でも、比べたり、まとめたりにする整理の仕方を使って伝えたいことを明確にしたいです。

このように、「言葉による見方・考え方」が意識的に働く言語活動を設定したり、単元で働かせる「言葉による見方・考え方」の自覚化を促したりすることで、「深い学び」の実現を図っていきます。